

中心市街地の活性化は本当に必要であると考えますか？

必要ないもの

大規模或いは、小規模でも商業者への支援は必要がないと思います。公共で誘導するものではない感じがします。

中心市街地を活性化するための事業等のうち商業を活性化する事業の一部は消費者、商業者、誰のためか、よくわかりません。

必要なもの

- ・人が集まるしかけづくり
- ・歩きやすい、人が集まりやすいまちづくりの整備（公共空間の活用、人と車の分離、バリアフリー、ユニバーサルデザインの進め）

これらは各種イベント（広い圏域から誘客）とともに短期、中期的な事業展開を行う。

長期的には、

- ・中心市街地をコンパクトにする

浜松駅から、市役所まで直線で約1 km、道のりではかなりの距離がある。

静岡市役所は約600m、道のりでもほぼ同じである。

静岡は誘客力のある伊勢丹が商店街のハズレにあり、これも駅から1 km圏内、徒歩圏を考えれば浜松の中心地は広すぎる感じがします。

- ・人が集まる施設について、更新時に再配置する（極端な話しですが、用地確保は地下、容積率緩和）

駅の東には、アクトシティー、浜松科学館があり、商店街は西に広がっている。

例えば、浜松科学館の更新時にはザザシティ或いは、ヨーカドー跡地に再配置、そのほか病院や県内でも大規模なコンサートが開かれる浜松アリーナなど中心地に誘致する。

商業施設による誘客はムリがあり、持続性がないと思います。

中心市街地の賑わいは『商い』だけでは、無理のような気がします。

いままで、数十年にわたり、郊外へ拡大し、作られた都市。これからはどこからも、1路線の公共交通で来ることができるコンパクトな中心市街地（市役所、病院など公共公益施設、商店街）その中は歩く、自転車で回れるまちづくりに、時間をかけて取り組む必要があると思います。

以上

課題 中心市街地の活性化は本当に必要であると考え

えるか？その理由と、誰が誰のために取り組むべき問題であるか述べてよ

先日の浜松市商業政策課の玉越さんのお話を伺い、私は中心市街地の活性化は必要であると考えます。しかし、活性化することは大変難しいことです。近代化や経済の発展により、人々が自由に車で移動することができるようになりました。「ここでしか買い物ができない。」ではなく、「ここで買いたい。だからこの店に行こう。」と自分の買いたい物を自由に選んで買いに出掛けることができるのです。また、人々の嗜好は様々で、買いたい物、必要とする物は様々であるということです。そのため、中心市街地で買い物をするよりは、郊外的大型店舗で買い物をする方が時間的なロスが少なく、様々な嗜好を満足させることができると思う人が多いのではないのでしょうか。

しかし、私が中心市街地の活性化が必要であると考えます。その理由は、3点あります。1点目は、中心市街地はその都市の「顔」です。その「顔」に元気がなく、活気に溢れるものでなければ、その都市は魅力あるものとは言えません。2点目は、歴史が途絶えてしまうということです。浜松市は戦国期から浜松城を中心に城下町として栄えました。この歴史ある都市からこのまま人が減少し、地元の人が行かなくなってしまうと、その歴史も途絶えてしまうはずで、それは残念でなりません。そして、3点目が、顔の見える、肌で温度を感じられる点です。郊外的大型店舗に買い物に行くときの移動は、家と店の点と点を結ぶ移動にすぎません。しかし、中心市街地に買い物に出掛けるときは、家と街中の通りや様々な店舗を通ります。そういった面としての移動をするとき、街の様々な人々と関わったり、街の雰囲気を感じたりすることができます。

私は以前、学生時代に静岡市に住んでいた経験があります。静岡市の中心市街地は大変活気があるように感じました。その理由として、街中に大型デパートが街中に多くあること、駿府城や渡月楼などの歴史的遺産があること、小売店の数も浜松市より多く存在することがあげられます。そのため、若者から観光客、お年寄りまで中心市街地での買い物や娯楽を楽しめる環境があるのです。

こういった浜松市の状況をふまえ、これから取り組むべき問題について3点述べさせていただきます。まず1点目は、「自分」が「街」に対してできることです。中心市街地を考えると、どうしても店に買い物に行くという視点で考えがちです。しかし、中心市街地が担っているのはそれだけではありません。

浜松市でも、毎年ブラジルサンバフェスティバルや浴衣祭りが行われています。月に何回かこういったイベントが街中で行われているのです。こういったイベントにまず自分が参加してみる。そして、誰がどんなことを行っているのか知ることが大切だと思います。出てみなければ分からない、誰かではなく自分が行動してみなければ分からないのではないのでしょうか。

2点目は、「店」が「客」に対してできることです。私はよく街中にあるシネマ e~ra に映画を見に出掛けます。この映画館は、大きな映画館ではなかなか上映していないミニシネマで、内容のある映画を浜松でも上映できるようにしようというコンセプトで昨年できました。店が明確な意識をもち、客に対してそれをアピールすることで、客の側もその考えに納得し、その場所に行ってみよう、出掛けてみようという意識になります。そこで、店の側もどんな客に来てほしいか、どんな物を買るといいかを十分リサーチしていくことが大切なのではないかと思います。

3点目は、「行政」が「市民」にできることです。中心市街地活性化に力を入れている行政側が、市民に様々なイベントの情報を伝えたり、頑張っている小売店や商店街を広報などで多く紹介したりしていくことが大切なのではないかと思います。

このようにすることで、中心市街地が活性化していくのではないかと思います。何か取り組みをしてすぐに大きく変化するものではないでしょう。しかし、私たちが普段から心がけ、なるべく街中に足を運ぶようにしていくことが今後の浜松市の発展につながっていくように思います。

まちづくり人材育成講座（第4回）

課題

「必要である」

私は、なによりも浜松市のために、そしてそこに住む地域住民のために中心市街地活性化は必要であると考えます。

まちの顔として

今回の座学の中でも述べられていたように、中心市街地はなにか？というと、まちの顔である。まちの顔が暗く、さびしい雰囲気であったら？まちのまたそこに住む人々の活気も感じられないような環境であったら？...まち全体に対してもそのようなイメージを与える要因にもなりかねない。それは悲しいことだと思う。

また、そこに長く住み商売を営む人々やそこに古くから買い物に出向いて生活している市民の生活や歴史的なものを象徴するものであると考えます。中心市街地、特に商店街はそのような人々の生活空間として人間臭さ？というようなものを感じられる貴重なものであると思う。そのような空間は全国的にも廃れているし、地域のつながりも欠如している時代であることもあり、地域住民にとってとても大切なものである。

コミュニケーションの場として

商店街の特徴・利点を考えた時に、顔の見える買い手と売り手が交流をしながら買い物ができる場であるということだろう。人と人とのつながりが生まれて、憩いの場、情報が集中する場となって重要な生活の一部となっていたらう。また浜松の一大イベントである浜松祭りのときには、屋台が並んだり、にぎわう中心にもなる。それ以外にも、ものづくり浜松としての、若者の作品を売るマーケットが定期的開催されたりもしている。地域住民のいろんな顔が見れる、コミュニケーションの機会として必要不可欠な場だと思う。

中心市街地の活性化は本当に必要であるか

中心市街地の機能は主に商業的役割、環境、地域交流と多種多様な役割を担っており、いずれも市民が快適に生活を営む上で不可欠である。少子高齢化が進むなか、持続可能な社会を築き上げるために中心市街地の活性化は欠かすことのできないことだと考えている。

経済の停滞、少子高齢化を迎えているわが国では、中央集積を解体することは、財政の圧迫、公共サービスの低下を意味する。郊外に市街地の居住、公共設備、商業機能を拡散すればするほど、インフラ設備投資や、高齢者の福祉にかかるコストが肥大化していくからである。ただでさえ、市は財政難で公的サービスを支えることが難しいというのに、中心市街地から得られる固定資産税が低減し、郊外化による多方面の出費が必要になれば、公的サービスが存続できなくなる恐れがある。

仮に中心市街地が衰退し、人口が分散し、郊外化が進むとする。人々は当然、公共交通より自動車を用いて生活を始める。公共交通の役割は基より、自動車を保有していない者や運転を苦手とする高齢者といった交通弱者が快適に生活を送るための手段である。増加していく高齢者のことを考慮すれば、自動車に依存する社会より、自宅から徒歩や自転車、公共交通を利用したライフスタイルとなるので、より一層コンパクトな町づくりが必要になる。

人々の公共交通離れが進めば、進むほど、市の財政はますます圧迫され、結果的に路線の本数を減らし、年配の方や障害を持つ人にとって利便性が損なわれる。人々の生活において自動車への依存を考えると、大気汚染や二酸化炭素量の増大といった、環境面においても大きな影響を及ぼすだろう。

逆に中心市街地を活性化させた場合を考える。中心市街地の役割として市民の交流の場という機能がある。市民の交流活動が盛んになると、地域の防犯、清掃、環境保全をはじめとした様々な活動が行われるようになる。これらの市民活動は、地域によっては行政が本来行うべきことも市民が引き受けているケースもみられる。市民が率先して様々な問題に関与することで、住民サービスの質を維持したまま、行政機能の縮小を図ることができる。

中心市街地の活性化は市民側からすれば、市街地の活性化は都市の維持につながることであり、生涯学習の場、多様な人間と交流する場を老若男女問わず公平に享受できるようになるというメリットがある。

また、行政にとっても中心市街地の活性化を図れることにより、商業が活性化し、税収の維持と郊外化に伴う公共設備の出費を抑えることができるので、活性化の取り組みを推し進めるべきである。少子高齢化を迎え、これから多くの市民が医療福祉、公共交通に頼ることになるので、働き盛りの市民は自分の老後、或いは次世代の人のために、行政や商店街の事業者の人たちと協働して市街地を活性化し、現在の都市を継承していかなければならない。

持続可能な社会を築き上げるためには、少子高齢化、経済の停滞に則した、人々が交流し、経済に刺激を与えるコンパクトなまちを築きあげねばならない。また、財政、自然環境、人々のライフスタイルの面でコンパクトなまちづくりが政府の機能を縮小は必要である。そのためには、市民と行政が協働し、中心市街地を活性化させて、人口を都市部に人口を定着させなければならないと考えている。